

8 ピーマン品種比較試験, (参考調査)白黒マルチ効果確認調査

背景と目的

市内では「みおぎ」が基幹品種として栽培されていますが、夏期の尻腐れ果の多発生が大きな問題です。尻腐れに強いとされる品種「ピクシー」が導入されたことから「みおぎ」との比較を行いました。また、地温抑制による尻腐れ果の軽減効果について白黒マルチ栽培での検討を行いました。なお、本試験は平成 28 年度からの継続課題ですが、昨年度の結果は平成 28 年度の試験成績書概要版をご参照ください。

関係先 旭川青果物生産出荷協議会ピーマン部会

試験区設定

1 品種比較試験

供試品種：みおぎ（園芸作物研究所）、ピクシー（横浜植木）

2 白黒マルチ効果確認調査（品種：みおぎ, ピクシー）

白黒区：定植時はグリーンマルチを使用し、
高温期よりその上に白黒マルチを上掛けした区
慣行区：定植時よりグリーンマルチのみを敷いた区

試験結果

1 品種比較試験（表 1, 図 1）

収量性では、みおぎがやや上回っていたが、良果収量ではほぼ同等でした。月別収量では、ピクシーが収穫初期は多く、後期では減少しました。尻腐れ果は、7月の高温によりみおぎで発生が目立ちましたが、ピクシーでは若干発生したもののみおぎより少なくなりました。果実品質は、昨年と同様に、ピクシーは果長が短く、肉厚で果色が濃い傾向が見られた。

なお、ピクシーは、昨年度の試験で草勢低下後の回復が劣る傾向が見られたため今年度は強めの草勢管理を行いました。側枝の発生が旺盛で下垂枝や枝折れが発生しやすい傾向がありました。このため整枝作業が多く、みおぎより長期間続ける必要がありました。

表 1 収量調査

	総収量 (kg/10a)	良果収量 (kg/10a)	不良果収量 (kg/10a)	うち尻腐果	良果割合 (%)	良果 1 果重 (g)
みおぎ	8,995	7,737	1,258	289	86.0	31.0
ピクシー	8,624	7,773	851	46	90.1	30.6

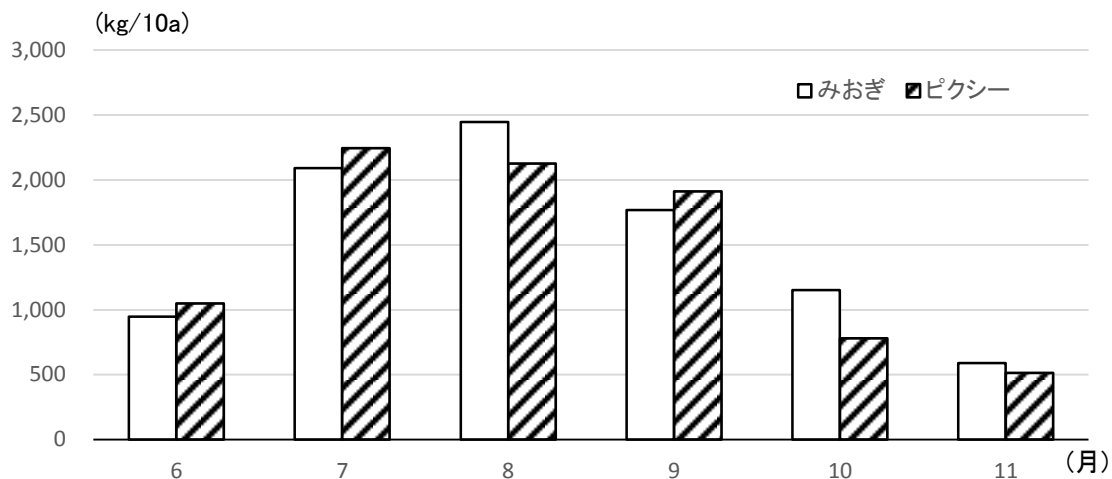


図1 月別総収量

2 白黒マルチ効果確認調査 (表2, 図2:ともに「みおぎ」)

昨年度の試験では、定植時からの白黒マルチの使用は根の発達が劣り、収量の低下、尻腐れ果の発生増から不適と判断されました。

このため、高温となった7月上旬より白黒マルチをベットに上掛けしたところ、収量は増加し尻腐れ果の発生が若干減少しました。しかし、10, 11月の収量は慣行区と同等もしくは減少となりました。同じ処理をしたピクシーでも同様の傾向が見られたことから、適切な時期に白黒マルチを撤去しグリーンマルチに戻すことで、収穫終期の収量の減少をより抑えられる可能性が考えられました。

表2 収量調査 (みおぎ)

	総収量 (kg/10a)	良果収量 (kg/10a)	不良果収量 (kg/10a)	うち尻腐果	良果割合 (%)	良果1果重 (g)
慣行区	8,995	7,737	1,258	289	86.0	31.0
白黒区	9,496	8,491	1,005	252	89.4	31.4

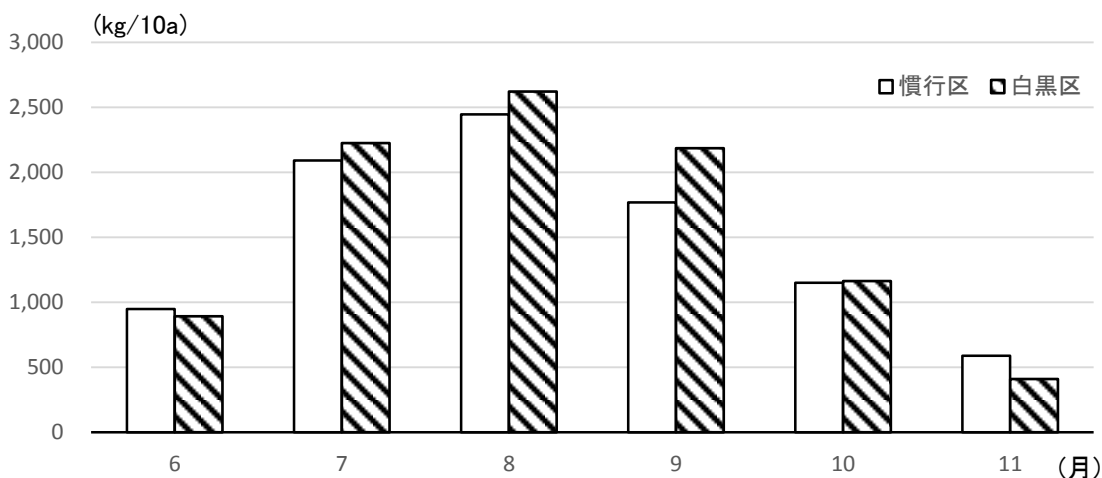


図2 みおぎ月別総収量